

時代を超えて受け継がれる
地域の絆と地元愛



加入に関するお問い合わせ 町田市町内会・自治会連合会 042-722-4262

忠生地区町内会・自治会連合会

会長 高橋 清人さん

副会長 彦根 健一さん / 佐藤 臣一さん

忠生地区協議会事務局長 小林 静雄さん

町内会・自治会の存在が見直されている。それは阪神淡路大震災の際に町内会・自治会が機能していたかどうかで救急や復旧の違いが顕著だったことが、その後の調査で分かったからだ。東日本大震災でも地域の絆の大切さが叫ばれた。町田市の町内会・自治会は現在、全部で308団体、加入世帯率は約55%。市内を10地区に分け、町内会・自治会連合会という組織で束ねている。今回は町田の中心部西側に位置する忠生地区町内会・自治会連合会の方々のお話を伺った。

が想定されているなど、これから将来にかけて大きな変貌が予想されるエリアだ。昨秋には「子どもセンター」ただONが、今年の3月には「忠生市民センター」も完成し、連合会の役員を中心に、地域住民が色々な側面で市と協議しながら、街づくりを積極的に進めているエリアでもある。

連

合会が毎年10月に開催している「ファミリースポーツ祭」は昭和41年から半世紀も続いている行事。町内会・自治会ごとに点を競い、毎年、老若男女700人もの参加がある。「綱引きやリレーは盛り上がりませぬ。特に、予選を勝ち抜いたチームで競う一番最後のリ

レーの決勝は凄いですよ。小さいお子さんからお年寄りまで、一緒に走るなんて普通はありませんからね。そう語るのは会長の高橋さん。学校も年齢も関係なく共に競い、汗を流し、声を張り上げて応援することで最高のコミュニケーションが生まれるという。昼食も同じ町内会・自治会ごとに集まり、皆でお弁当を囲む。そんな昔ながらの光景も微笑ましい。

活動にも参加していたという。郷土文化伝承のボランティア活動も行っている副会長の彦根さんは、「うちの町内会は歴史があって、町田市が出来た前年の昭和32年からあるんです。古くからあるので、皆顔見知りだし、役員の交代も頼まれたら断れなくて」と笑う。歴史の古い土地柄のせいも、皆一様に地元への愛情と、自治の担い手としての自覚がある人ばかりなのだ。

地

区協議会は今年の5月に発足して間もないが、連合会だけでは出来ない新しいことに取り組みたいと意気込みを見せる。3月に完成した市民センターの中には地区協議会専用の活動室もあり、12月には初めての音楽会を企画中だ。

27の町内会と自治会で構成される忠生地区町内会・自治会連合会。ここはリサイクルセンターの老朽化に伴う建て替えや小田急多摩線延伸による新駅設置

それぞれの町内会・自治会でも、盆踊りや防災訓練など、色々な工夫を凝らして親睦を図っている。その一方で、加入率の減少や若い世代の参加が少ないことが他の地区同様、一番大きな課題でもある。役員を務めているのは、定年退職して、比較的時間が自由になる方が殆ど。ただ、会社勤めをしている頃から地域への関心は高く、

そ

それぞれの町内会・自治会でも、盆踊りや防災訓練など、色々な工夫を凝らして親睦を図っている。その一方で、加入率の減少や若い世代の参加が少ないことが他の地区同様、一番大きな課題でもある。役員を務めているのは、定年退職して、比較的時間が自由になる方が殆ど。ただ、会社勤めをしている頃から地域への関心は高く、

桜美林学園や地元の小学校との連携、そして何よりも横の繋がりが強い忠生地区。安全で住みやすい明るい街づくりに積極的に取り組む原動力は、地元に対する深い愛情と責任感だ。そして、繰り返し次世代へ引き継がれていく風土が間違いなく根付いている。歴史と地元愛が培った揺るぎない絆がそこにあった。



A ファミリースポーツ祭の綱引き B 防災訓練も意識した競技も行われる



忠生地区町内会・自治会連合会副会長の彦根健一さん



忠生地区町内会・自治会連合会会長の高橋清人さん



忠生地区協議会事務局長の小林静雄さん



忠生地区協議会事務局長の小林静雄さん

The Machibito — Chitika ni Ikiru